

事務事業評価シート

(H.28)No.	1070-3	(H.27)No.	1070-3
-----------	--------	-----------	--------

事務事業名	医療体制推進寄附講座開設事業		
担当部局名	担当室名	室長名	
福祉子ども部	医療福祉総務室	田中克広	

会計区分	事業コード	250531
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款	衛生費	保健衛生総務費
項	保健衛生費	(小事業名)
目	保健衛生総務費	医療体制推進寄附講座開設事業

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	1	互いに認めあい支えあう、健康で安心できる暮らし
	基本政策	4	健康長寿のまちづくり
	施策	2	地域医療
	小施策	2	救急医療体制の充実
重点施策コード	1-3.市立病院の充実と経営の健全化		

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
それぞれの研究を通じて質の高い医療を提供するとともに、伊賀地域における二次救急医療の確保を図る。
事業内容
関係大学に対して寄附講座を設置し、専門性の高い医療の研究を進めるとともに、名張市立病院への医師派遣等により、伊賀地域における二次救急医療の確保を図る。

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H.27年度(事業量・取組実績)	H.28年度(事業量・取組計画)	H.29年度(事業計画)	H.30年度(事業計画)	H31年度(事業計画)	
主な事業の実績・計画	総事業費 58,500千円 1.寄附講座設置事業 三重大学、関西医科大学他 51,500千円 2.委託事業 7,000千円 奈良県立医科大学 4,000千円 三重大学 3,000千円	総事業費48,500千円 1.寄附講座設置事業 三重大学、関西医科大学他 41,500千円 2.委託事業 7,000千円 奈良県立医科大学 4,000千円 三重大学 3,000千円	総事業費48,500千円 1.寄附講座設置事業 三重大学他 41,500千円 2.委託事業:奈良県立医科大学 他 7,000千円	総事業費48,500千円 1.寄附講座設置事業 三重大学他 41,500千円 2.委託事業:奈良県立医科大学 他 7,000千円	総事業費48,500千円 1.寄附講座設置事業 三重大学他 41,500千円 2.委託事業:奈良県立医科大学 他 7,000千円	総事業費48,500千円 1.寄附講座設置事業 三重大学他 41,500千円 2.委託事業:奈良県立医科大学 他 7,000千円

	H.27年度(決算見込)	H.28年度(作成時予算額)	H.29年度(計画予算)	H.30年度(計画予算)	H31年度(計画予算)
①直接事業費	58,500千円	48,500千円	48,500千円	48,500千円	48,500千円
内訳(千円)					
国・県支出金	15,000	0	0	0	0
地方債					
その他()					
一般財源	(0) 43,500	48,500	48,500	48,500	48,500
人工数					
職員	0.20人	0.05人	0.05人	0.05人	0.05人
臨時職員等		0.00人	0.00人	0.00人	0.00人
②概算人件費	(0千円) 1,520千円	380千円	380千円	380千円	380千円
①+②総事業費	(0千円) 60,020千円	48,880千円	48,880千円	48,880千円	48,880千円

4. 担当室による事務事業の点検 (*点検等による成果向上や見直しが困難な事業(法令等による義務的経費、災害復旧等緊急事業など)は点検対象外)

考察(H27年度の取組評価、課題)	今後の対応方針(課題解決への取組、工夫・改善の内容)
寄附講座により、名張市立病院の医師数は徐々に増加しており、また小児救急医療センターを開設し、小児二次救急医療を実施している。全ての二次救急医療受け入れ体制の確立のためには、引き続き、寄附講座を継続する必要があるが、27年度で補助が終了したことから新たな財源確保が課題である。	寄附講座により、名張市立病院の医師数が徐々に増加し、伊賀地域の二次救急医療体制の危機が若干緩和されたが、まだ十分な数ではないため、引き続き、関係大学からの医師確保を図るため、寄附講座等の事業の必要である。

点検項目	内容(施策達成への貢献内容、連携・協働の実践・検討内容)
(1) 事業内容や取組成果は、総合計画の施策達成に貢献しているか A(2つ以上の施策指標達成に貢献又は基本方針達成に特に貢献)	寄附講座による市立病院への医師派遣により、伊賀地域の二次救急医療体制の構築につながった。
(2) 地域づくり組織、市民活動団体等との連携・協働は図れないか 該当しない	地域住民が安心・安全に生活できるまちづくりを基本施策に掲げている地域が多く、寄附講座により医師が増えることにより、医療体制の充実に繋がる。

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合検討、休止検討、廃止検討、事業完了(予定含む)	継続(現行)
具体的な見直し内容・検討内容、継続の理由	6. 事務事業の取組に関する主な市の計画
市立病院への医師派遣は、派遣元大学への寄附講座設置等によるものが大きいため、伊賀地域の二次救急医療体制を維持するためには今後も継続する必要がある。	